

熊本県立岱志高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標	
1	夢(志)を描き、夢の実現への挑戦……志を育み、励まし、鍛え、伸ばす
2	確かな学力の育成……基礎・基本の確実な定着。個に応じた指導の充実
3	生徒指導の充実……基本的生活習慣の確立及び自律心の育成
4	心の教育の充実……自己肯定の心と命を大切に作る心、郷土を愛する心の育成

2 本年度の重点目標	
(1)	特色ある学校づくりを推進する。
(2)	学力の向上と進路保障の取組を強化する。
(3)	健全な心身を育成する。
(4)	安心・安全な学校を維持する。
(5)	地域社会に期待に応え、活力ある学校づくりに努める。

※評価については 4：十分達成 3：概ね達成 2：やや不十分 1：不十分とする。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の活性化	○本年度の重点目標を意識した教育活動の積極的実践	○分掌部や学年間の連携と運営委員会の活性化	○運営委員会における定期的な学校評価目標の達成報告と検証の実施	1.9	●共通理解・認識については連携がとれていたが、定期的な学校目標の検証が不十分であった。
		○生徒理解と合理的配慮の充実	○教育環境のUD化推進 ○中途退学者・長欠者数の減(前年度比)	○教室のUD化推進(掲示物、板書等の工夫実践) ○個々の生徒に応じた学習指導及び生徒指導の充実		●合理的配慮について研究授業を実施し、研修の実施はできたが、学校全体の充実までは至っていない。
	学校PRと情報発信	○地域、中学校、保護者への情報発信	○前期定員の充足 ○受検者数の2割増(前年度比)	○学校改革委員会における学校魅力発信内容の検討 ○管内中学校への訪問(年3回)とアンケート実施	2.6	●管内中学校への訪問は年間で5回以上実施できた。
		○開かれた岱志高校の実現	○PTA総会・保護者会の出席率の向上(前年度比) ○地域への公開授業の実施	○保護者会の内容精選及び充実 ○地域や管内中学校への公開授業の案内		●総会の出席率は22%であった。 ●公開授業は保護者のみの参加であった。
学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	○3年間を見通した計画的な授業の実践	○シラバスに基づいた授業時数の確保	○教科ごとのシラバスの作成と効果的な活用	2.3	●各教科シラバスを効果的に活用して計画的に授業が実施できた。
		○分かる・できる授業の工夫・改善	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(授業評価の活用) ○全教科研究授業の実施	○授業評価による実態把握(7月、12月) ○教務部企画による研究授業実施の推進(研究授業強化月間を通じての授業の工夫改善)		●分かる・できる授業の工夫については定着してきた。 ●授業アンケートによるフィードバックが共有できなかった。
	自学力の醸成	○生徒自ら学ぶ姿勢の確立及び学び力の向上	○定期考査前1週間の家庭学習時間平均150分以上	○定期考査前1週間と考査期間中の家庭学習時間調査の実施	2.5	●家庭学習時間の減少に歯止めがかからない。特に1年生は厳しい状況であった。
		○目標に向かって地道に努力を積み重ね	○学力が厳しい生徒への基礎的・基本的な内容の定着	○夕学習会の時間の設定 ○数学での習熟度別		●全員参加の夕学習会は基礎基本の徹底から応用力の育成に

		る生徒の育成		指導の実施		効果的であった。3年生の就職内定後の取組にやや課題が残った。 ●数学の習熟度別少人数指導の効果的であった。
キャリア教育 (進路指導)	進路意識の高揚	○自己理解と職業理解	○オープンキャンパスや企業見学へ学年で1回以上参加し、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解推進	○インターンシップ、企業見学、進路の日(校内の進路学習)校外ガイダンス、オープンキャンパス、ポートフォリオ等	2.1	●1学年は6月の「職業理解パズルワーク」、12月の「お仕事探検フェア」、1月の「校内企業説明会」を実施した。2学年は夏の企業見学等の進路学習、インターンシップ前後も職業理解学習を行った。 ●進路目標決定率は1学年47%、2学年63%であった。(12月時点)
		○主体的な進路選択	○進路目標の明確化(暫定値) 1学年:60% 2学年:80%	○進路の日(校内進路学習)の充実、進路のしおりの活用、三者面談、進路志望調査、希望者対象職業人講話		
	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	○基礎学力の定着	○基礎力診断テスト第1回テストから第2回テストへのGTZ上昇	○基礎力診断テストの実施、事前学習教材の活用、分析会の実施 ○夕学習会の実施	2.2	●基礎力診断テスト第1回後に進路部と学年部による検討会を行った。第2回は各学年で事前学習教材を活用し、GTZが上昇した。 ●各学年小論文担当による研修参加、小論文職員研修、小論文模試を実施し、主に3年生の指導に役立てた。
		○自己理解の深化と表現力の育成	○面接・小論文及び志望理由書の書き方等の研修実施、小論文模試の実施	○面接・小論文及び志望理由書の書き方等の研修実施		
生徒指導	生活指導の充実	○「岱志五原則」に則った基本的な生活習慣の習得	○年8回の頭髪服装指導と毎朝の登校指導の実施による違反者、遅刻者等の減少	○中高連絡会の実施 ○服装頭髪検査事後指導の一元化と徹底 ○登校指導、あいさつ運動の実施、遅刻者の正確な把握と事後指導の徹底	3.0	●計画した取り組みについては予定通り実施した。今年度からインターネット社会に対応するため情報モラル教育を取り入れ実施した。 ●貴重品の管理を徹底させた。今年度は金銭について盗難の報告はない。傘等の私物の管理にも力を入れたい。
		○規範・防犯意識の高揚	○特別指導件数及び校内における貴重品盗難、無断免許取得・無断アルバイト等の指導件数減少	○軽微な違反に対する朝掃除実施 ○貴重品管理の随時指導及び移動教室の際の施設徹底 ○関係各所等の積極的な巡回		
	交通安全教育の充実	○交通マナー及び危険予知能力の育成	○交通事故件数の減少	○登下校指導の徹底 ○交通講話の計画・実施 ○荒尾警察署との連携	3.0	●今年度はスタントマンによる事故再現の講習会が実施でき今後の交通安全に結びつけた。 ●自転車の盗難は報告がなくステッカーもきちんと貼っている ●予定取り年2回実施できた。事故違反もなく安全運行ができています。
			○二重ロック率の向上	○自転車ステッカー点検 ○鍵かけ運動の実施		
○原付通学生の違反や事故防止の徹底			○年2回の原付実技講習の実施 ○原付通学生登校指導の実施			
生徒会、委員会活動	○部活動・学校行事の充実	○部活動加入率90%	○「部活動体験週間」の設定 ○生徒会、各部長を	2.9	●加入率の向上に取り組んだが、大きな伸びはなかった。	

	<p>動の活性化</p> <p>○地域に貢献できる生徒の育成</p>	<p>○地域行事やボランティア活動への積極的参加（将来の地域リーダーの育成）</p>	<p>対象にリーダー研修実施</p> <p>○生徒会・ボランティア部、学年による広報・啓発</p>		<p>●文化祭において近隣の小中支援校との連携に取り組んでいる。</p>	
<p>人権教育の推進</p>	<p>研修の充実及び系統立てた人権教育の実践</p>	<p>○校内外の研修の充実</p>	<p>○教育相談係や保健部、学年部との連携及び外部機関との情報交換</p>	<p>○生徒理解研修を年4回実施</p> <p>○全職員年1回以上校外研修への参加</p>	<p>2.0</p>	<p>人権推進委員会を11回、生徒理解研修3回、校内職員研修2回を実施した。校外研修もほぼ全員が参加した。人権推進委員会に養護教諭に参加してもらったことで支援の必要な生徒の把握ができた。また「心と命」の企画も話し合えた。生徒理解研修が3回しかできなかった。</p>
	<p>○系統立てた特設授業の実施</p>	<p>○特設授業を各学年年間3回実施</p>	<p>○教務部、各学年との連携による計画的実施</p>	<p>全学年で人権LHRを実施した。また2・3年生では人権教育主任が人権講話を行った。また特別指導の生徒に人権からの視点で指導を行った。また1学年で部落問題認識調査を行い。部落問題を始め障害者やヘイトスピーチなど人権関係の認識不足がわかったので次年度からの取組の参考になった。</p>		
	<p>命を大切にすることを育む指導の実践</p>	<p>○人権擁護に関する意欲・態度の涵養</p>	<p>○「平和と人権の集い」の実施、人権標語・作文への応募を通じた人権尊重の意識の高揚</p>	<p>○人権教育係が企画し、学年部と連携し全体集会やLHR等で実施</p>	<p>2.2</p>	<p>全学年で水俣病講演会、人権講演会を実施し、8月には「平和と人権の集い」で「この世界の片隅で」を全校生徒で鑑賞した。生徒の感想を見ると「知らなかった」や「学びが多かった」などの感想が多かったが、どのくらい浸透しているのか把握できなかった。</p>
<p>○生命の大切さを理解し、自他の生命を尊重する生徒の育成</p>	<p>○各教科、各領域における「命を大切にすることを育む指導の実践</p>	<p>○各学年の指導プログラムを作成（年7回実施）</p>	<p>10月から6回「心と命」の取組の資料を作成し、配布した。また命に関する朗読や歌も流した。毎回終了後に感想を言ってくれる生徒や職員が回を増すごとに増えてきた。読みっぱなしなので生徒がどのくらい精読しているのか把握できな</p>			

いじめの防止等	いじめの防止及び健全・良好な人間関係の構築	○いじめを防止するための組織的な取組	○いじめを防止するための情報交換 ○いじめが発生したとき迅速な対応	○中高連絡会を年1回実施 ○いじめ防止対策委員会を各学期毎に実施	2.1	った。 ●アンケートを実施しいじめの早期発見、対応に努めた。
		○いじめを起こさない環境づくり	○教育相談、道徳教育及び体験活動の充実による互いを認め合う関係の構築	○「心のアンケート」を学期毎に実施 ○担任面談の充実 ○1年生1学期にコミュニケーションプログラムLHRの実施		●年3回のいじめ防止対策委員会を開催し対応等に外部専門家の意見も取り入れながら適切な対応に努めた。 ●数件SNS上でのトラブルがあり、さらなる指導の必要性を認識した
特別支援教育	特別支援教育指導力の向上	○特別支援教育によるキャリア教育の推進	○進路部と連携したキャリア教育	○SSTやコミュニケーション指導を取り入れた授業の実施 ○就労支援機関等との連携	1.8	●今年度は生徒の実態から進路部と連携する場面が少なかった。
		○個に応じた支援計画の実践 授業のUD化	○効果的な個に応じた指導の充実 ○UDの視点を取り入れた授業の実践	○個別の教育支援計画等に沿った支援の実践及び評価 ○二次障がいに関する理解促進 ○校内委員会や生徒理解研修を活用した組織的な支援の展開		●個別の支援計画を作成し、効果的な支援を行った。  ●チョークをカラーユニバーサルデザインに変更した。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災コミュニティ・スクールによる地域との連携	○地域における防災拠点づくり	○災害時における地域との連携協力体制の構築	○学校運営協議会の実施(年5回) ○荒尾市総合防災訓練へ係職員の参加(11月)	2.1	学期1回の学校運営協議会実施と年4回の担当者会実施。10月に荒尾市との協定調印。荒尾市総合防災訓練に職員3名とラグビ一部員20名参加。
	荒尾市との共働による地域と学校の活性化	○地域イベント参加による市への貢献  ○学校の特性を生かしたタイアップ行事の充実	○荒炎祭や市政フォーラムへの積極的参加  ○「岱志塾」や「タグラグビー教室」の実施充実	○生徒会を中心とした生徒主体の取組実施  ○生徒会を中心とした生徒主体の取組実施		2.7
環境教育	環境教育の充実	○委員会活動の活性化	○環境美化強化週間の各学期実施による環境美化推進と活動の充実	○生徒会・各学年と成果の分析、事後指導実施 ○学期1回の学校周辺地域清掃活動	2.1	●委員会生徒による環境美化チェックを実施、結果を提示し環境美化を促進した。  ●1学期については猛暑のため、生徒の体調管理を優先し、中止とした。2、3学期については予定通り実施した。
		○学校版環境ISOの取組の充実	○省エネ・リサイクル活動の全生徒・全職員による取り組み推進 ○資源の有効活用	○電気・水道使用量を前年度と比較、「エコ伝言板」で広報 ○裏紙の利用推進 ○環境問題校外研修実施(2学年)		●エコ伝言板での校内広報が不十分であった。 ●裏紙利用についての意識や取り組みが、ある程度定着してきた。 ●学年との検討の結

						果、実施しなかった。
--	--	--	--	--	--	------------

**4 学校関係者評価**

○学校の魅力を創造し発信するためには生徒たちが受け入れやすく面白い授業、先生が好きになれる授業を模索していきましょう。生徒主体で、行ってよかったと思える意識に変える取り組みが必要ではないかと思う。

○ボランティア活動など地域に密着しているんなことをして、私自身は学校に対してとても評価しています。進学・就職していて素晴らしいと思います。

○小中学校でICTやタブレットの利用が進められているが、高校でもタブレットを使っていけば子どもの意欲が変わってくるのではないかと。

○2月の美術工芸コースの卒業制作展を見させてもらったが、作品を見ると生徒が力を入れて書いていることが伝わってくるので、是非各学校の美術部などにも働きかけて、発信していくとよいのではないかと。

○荒尾玉名地区県立高校4校合同シンポジウムで美術工芸コースの生徒がデッサンしている姿を見せられたというお話も聞きましたが、そういった具体的なものを盛り込んだ形での情報発信をしていくともっと人が集まるのではないかと。

**5 総合評価**

(1) 本年度の生徒募集について、残念ながら募集定員を大きく下回りよりいっそう厳しい状態である。しかしながら多くの生徒は教育活動全般において落ち着いた学校生活を送っており、それぞれの分野において良い成果を残している。学校活性化や生徒募集の観点から本校の情報の発信やPR等、更なる工夫と努力が必要である。

(2) 今年度導入した夕学習会は、全校生徒の取り組みとして定着してきており、今後は難関大学進学に向けて動画アプリを活用し充実させていく。

(3) 生徒指導面では全職員で予防的生徒指導に取り組み学校全体で成果が上がってきている。いじめ防止等については、これまでの取り組みもとにSNS等利用のあり方についても更に指導を徹底していかなければならない。

(4) 防災型コミュニティスクールの導入により、校内における防災訓練の工夫や事前事後の研修が充実してきた。また荒尾市の総合防災訓練に参加するなど地域と連携した防災の意識が高まった。

(5) 学校全体として部活動、ボランティア活動等、生徒主体の活動が十分とはいえない状況である。

**6 次年度への課題・改善方策**

各アンケートおよび学校関係者の意見を基に、本校における課題を4点挙げる。

○学力向上・・・授業充実（授業アンケートの分析による授業改善等）、宅習時間を増やすための取組改善、合理的配慮の充実等

○情報発信・生徒募集・・・中学校への広報とともに生徒の校外活動の奨励等

○地域連携・・・地元自治体との連携強化やコミュニティスクールの更なる推進等

○業務効率化・・・生徒数・職員数に対応した業務内容の見直し等

喫緊の課題である生徒募集に関しては対外的なPR方法の検討も大切であるが、まずは在籍している生徒に対する取組の充実・改善を第一に考えながら生徒・保護者に選ばれる学校として次年度の実践につなげていきたい。